

△日本水彩畫會研究所程ヶ谷支部は、現在會員十八名に達し、此上増加ありては充分の授業出來難きにより、缺員ある迄入會を謝絶すべしとの議あり。九月の如きは、批評を乞ふべく持よりし作品百五十余點に達したりと。

△長野縣飯山町にありし素絢會は、今回日本水彩畫會支部設立と共に散解し、會員は一切支部に移れりといふ。

△卷尾廣告にある通り、日本水彩畫會京都支部にては、本月第一日曜日發會式を舉行すべしといふ。

△日本水彩畫會十月例會は、二十四日午後より開會、出品畫二百點に近く、岡、大下諸氏の批評あり、終つて大下氏の『製作の動機』と題する講話あり、今回出品畫のうち優秀なりしは、榎本、八木、鈴木、向郷、望月、後藤の諸氏なりし。

△山岳に興味を有する名古屋市の有志は、この頃愛山會を設立されたり、事務所は名古屋市東七本松なりといふ。

紹介

◎美の影第二號 前號に引つゞき風俗四葉、風景七葉、花卉四葉、動物六葉の精巧美麗なる寫眞版を藏めたり、何れも實用を主として撮影せしものにして、技術者の虚榮的獨りよがりものにあらず、従つて畫家の參考としても充分其價值を認め得べし（會費金五十錢、神田駿河臺西紅梅町彩雲會發行）

問に答ふ

■一 カツサン鉛筆臨本は佛文なりや二 佛文にて水彩畫油繪其他洋畫に關する良書ありや（C且）◎一 英佛兩様に記載あり二 日本橋通丸善書店に問合されよ■青梅及長野にて開きたる講習會の記事は『みづゑ』何號にありや二 會友は記名料のほかに何等の出費なきや三 ワツシとは如何なることなりや四 森の茂みなどは色が汚れて困る、何色を用ひてよきにや（淺草間接讀者）◎一 一八、二十二、二十三にあり二 出費なし規定を精讀されよ三 畫面を洗ふこともワツシと言ひ、

色を廣く塗ることもワツシといふ、其場合によりて用法一定せず四 季節により、又、森の種類遠近等により一様にあらざ、注意して研究し、展覽會等にて他人の作により學ふべし、但暗くして深く見ゆる處は、不透明色を避け、クリムゾンレーキ、バアントシーナ等の透明色を用ひ見られよ■文房堂の割引券は何割引にや、且注文の時割引して送金してもよきにや（失敗生）◎一割引なれども品物によりては割引に應ぜざるものあり、されば一應照會を要すことゝ知りたまへ■吾等畫會を設けて研究中なれど、諸先生の肉筆畫を見、また自分等の寫生畫の批評を受たし、如何にせばよろしきや（川添生）◎日本水彩畫會の會友となれば、規定に従ひそれ等の便宜あるべし■糊いらず水貼枠と、普通の畫板と何れが便利にや、また前者は膨脹して描きにくし（鐵血）◎一枚の繪をかく時は手數かゝらぬ爲め前者の方が便利なり、旅行等にて澤山の繪をかく時は、後者の兩面に澤山水として置く方が便利なり、又、前者と雖

も、よく水を含ませ枠に挿めは普通水貼と異ならず、此枠の使用法を知らずして背面の板と同じ大さに紙をきり、たい背部より押して置く人あり、これでは何の役にも立たず、紙は板よりも二三分四方にあまる程の大ひさでなくてはいけぬ■東京にてワットマンハッ切位ひを入れる額縁の價は何程にして、何處に依頼せばよろしきや(山梨汀煙)◎壹圓位より以上は限りなし、二圓程の品なら體裁もよろし、小石川指ヶ谷町百一、山本商店へ問合されよ、親切に取扱ふならん■一『遠きものは不透明に寒く近きものは透明に暖かい』といふ意義■ワットマン紙の表裏を知りたし(三河ユウグレ)◎一近き林には蔭の中に蔭を見るべく透明に、それが遠くなれば蔭も日向も一樣に不透明となり、近き森は青や赤や種々なる色に富んで暖かな感あるも、それが遠くなれば黄の色は去り、一樣に藍灰色に重い感じになるといふ程のことにて、例外あることは勿論なり■紙をすかして見て年號文字の順によめる方が表なり、但繪

をかくの表にても裏にても別に差支なし■繪葉書交換は貴會にて取扱下さるにや■批評畫は水彩畫のみなりや■三會告にある肉筆臨本は額縁を附せしものにて(水月生)◎一取扱はず■西洋畫なら何でもよろし■三臨本を頒つなり臨本に額縁はなし■太平洋畫會畫集ありや其内容を知りたし(中丸生)◎四十一年のは本郷駒込千駄木林町方寸社にて五十錢、四十二年のは本郷湯島切通坂上畫報社にて六十錢何れも殘本あらん、内容は版畫約十枚、油繪は其三分の一を占む

讀者の領分

■肉筆スケッチ、繪葉書の交換希望者○韓國龍山鐵道官舎六十八號ノ二、栗本正隆○東京府下西大久保七三、北畠孚明○神奈川縣鎌倉長谷、堀谷紫海○尾道市久保町山路邦太郎○福岡縣三池郡大牟田町魚町、松本昇○東京府八王子八日町片岡英一郎■繪葉書スケッチ交換希望なれど模寫には返葉せず(大久保、北畠)■各地名所繪葉書交換希望(尾道、山路)■幹部

諸先生の肖像を雜誌の卷頭に掲げられたし(韓國の一會友)■未使用ハカリ形スケッチ箱格安に譲りたし(相州鎌倉、堀谷紫海)■米澤の佐藤さん、横濱の菱沼君御返葉を乞ふ(鎌倉、紫海)■洋畫講義録第九號以下御不用の方は安價に譲つて下さい(大阪船場唐物町上田忠方香林)■前號オトツサンの投書は私ではない(講習會に出席した川合生)■紀州長谷川氏へいつ頃御返畫ありしや未だ接手せず(京都松岡生)■京都支部設立を心から祝します(七條生)■講習會に出られなかつた小生はあの記事を見て非常に諸君の身を羨んだ、併し石川先生の『専門家と素人』を讀んで自から慰めてゐる(山直生)■『みづゑ』五十四號の『初秋の花』は麗しいが色が重々しいと思つた、石川先生の『美術談叢』は面白く拜見、いつもながら大下師の『小天地』は畫境にある憶をさした其他皆愉快に拜見投稿の文章の有益なるも賀すべきと思ふ(神戸、清想)

* * *